

多面的な単一細胞解析による 肺小細胞癌の本態解明の試み

2025年11月6日(木) 17:00～

金沢医科大学医学教育棟3階 病理診断室

※オンライン併用開催

参加申込QRコード



堀江 真史 先生

MASAFUMI Horie

神戸大学大学院医学研究科

病理学講座分子病理学分野 教授



ご略歴

2005年 東京大学医学部医学科卒業、初期研修の後に呼吸器内科に入局
2014年 東京大学大学院医学系研究科修了(医学博士)
2015年 東京大学保健健康推進本部 助教
2017年 University of Southern California, Research Associate
2019年 大阪大学医学系研究科がんゲノム情報学 准教授
2022年 金沢大学医薬保健研究域医学系分子細胞病理学 准教授
2024年11月～現在 神戸大学大学院医学研究科 病理学講座分子病理学分野 教授

肺癌を中心としたさまざまな疾患を対象にインフォマティクス、

分子病理学・分子生物学的手法を駆使した疾患解明を行っている。

シングルセルRNA-SEQを中心とした解析技術の革新により、様々な疾患における単一細胞解析が進展し、病態解明が大きく進んでいる。近年ではホルマリン固定検体(FFPE)からの解析も可能となり、今後はFFPE検体を中心とした単一細胞解析が主流になると考えられる。そのため、検体を扱う病理部との連携や、膨大な情報量进行处理するバイオインフォマティクスの重要性が一層増すだろう。

小細胞肺癌(SCLC: SMALL CELL LUNG CARCINOMA)は肺癌の約2割を占め、悪性度が高く難治性である。手術がほとんど行われないため、生検検体や凍結検体の入手が困難であり、単一細胞解析による病態解明が遅れていた。本日は、FIXED RNAプロファイリングや空間トランスクリプトーム、イメージングマスマイトメトリーなど、FFPE検体を基盤とした多面的な単一細胞解析を活用し、小細胞肺癌における不均一性や腫瘍微小環境との相互作用、さらには全体の5～30%を占める混合型肺小細胞癌(C-SCLC: COMBINED SCLC)の本態解明を試みる研究を紹介する。また、現時点での課題や今後の展望についても概説する。

担当 金沢医科大学臨床病理学 山田 壮亮 教授

問合せ 金沢医科大学 学事部大学院課

kmug-pro@kanazawa-med.ac.jp



※次世代北信がんプロ科目単位申請対象のセミナーです。